

平成28年度授業改善推進プラン

清瀬市立清明小学校第3学年

	学力調査から見えた課題(調査のない教科は授業における課題)	授業改善のための具体策(重点)	成果と課題(年度末)
国語	<ul style="list-style-type: none"> 文章を書くことへの苦手意識をもつ児童が多い。 全体に話すのが苦手な児童が多い。話す活動は意欲的だが、相手の話を聞く活動は集中できない児童がいる。 既習漢字も含め、漢字の定着が不十分である。 文章の読解力の個人差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> 相手・目的を明確にし、書く中心を決め、スモールステップを踏みながら書かせる。見本を提示し、イメージがわくようにする。 話す内容をしっかりとませ、原稿やメモを作る。話しやすい雰囲気を作る。話を聞く際、大事なことを落とさないようにメモしたり、質問したりするように指導する。 ノート指導を丁寧に行う。小テストの範囲を明確にする。 家庭と連携しながら、継続的に音読の指導を行う。読書に意欲的に取り組めるように、継続的に本の紹介をする。 	
社会	<ul style="list-style-type: none"> 調べ学習に意欲的に取り組むが、事実と考察を結びつけて考えられる児童が少ない。 資料から読み取る力やまとめる力が不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> 調べたことをまとめる機会と発表する機会を多く設け、学習の仕方を丁寧に指導する。 写真や映像などの視覚的な資料を用い、興味・関心をもたせながら、読み取る視点を明確に示す。資料の読み取り方の経験を積ませる。 	
算数	<ul style="list-style-type: none"> かけ算九九が、まだ曖昧な児童がいる。 繰上りのあるたし算や繰り下がりのあるひき算では、答えを出すのに時間がかかったり、指を使う児童がいる。 口を使って問題を式に直す問題では、立式ができない児童が多い。 時刻と時間では、何時間何分前や後の時刻についての概念で苦手な児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 朝学習で、九九の反復練習をする。家庭とも連携する。 百ます計算を行い、なるべく早く答えが出せるような練習を繰り返す。 具体物や図を活用したり、言語活動を取り入れたりすることで、自分の考えを整理し、理解を深めたり知識を定着させたりする。 日常生活の中で時計を使う機会を増やし、時刻や時間を意識した生活をしていくと共に、家庭にも協力を仰いでいく。 	
理科	<ul style="list-style-type: none"> 観察については意欲的だが、視点が不明確だったり、表現力が不十分だったりしている。 理科特有の用語の使い方が十分に定着していない。 	<ul style="list-style-type: none"> 観察カードの掲示だけでなく、発表の機会を多く取り入れ、同じ動植物を他の人はどうとらえているのか比較しながら違いなど意識するよう声かけする。 重要用語については繰り返し指導を行い、慣れるようにする。 	
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 互いの歌声や副次的な旋律、伴奏を聴いて、声を合わせて歌うことに課題がみられる。 曲想にふさわしい表現を工夫し、思いや意図をもって演奏することに課題がみられる。 音を音楽に構成する過程を大切にしながら、音楽の仕組みを生かし、思いや意図をもって音楽をつくることに課題がみられる。 音楽を形づくっている要素のかかわり合いを感じ取り、楽曲の構造に気を付けて聴くことに課題がみられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 部分二部合唱を取り入れながら、響きのある声の出し方にも気を付ける学習を多く取り入れる。 音色に着目して楽器を演奏し、奏法を学び、演奏の工夫の仕方を考える学習を多く取り入れる。 音楽の仕組みを生かした音楽をつくる学習を多く取り入れる。 学習指導要領の共通事項である音楽的な要素を手がかりに聴く学習を多く取り入れる。 	
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> 新しい技法や道具にチャレンジしようという意欲が高い。 道具の扱い、返却が丁寧にできない児童がみられる。 授業規律に課題のある児童がみられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業のねらいを核に、それぞれの表現が生きる題材の設定を行う。 道具の扱いについては危険な使い方につながるよう指導し、チェックをする。 個々に課題のある児童については担任と連携を図りながらみていく。 	
体育	<ul style="list-style-type: none"> 運動の技能に個人差が大きい。 体力や忍耐力に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 技能が高い児童は、難しい技に挑戦したり、模範となったりする。苦手な児童には、友達同士で教え合う活動や個別指導を取り入れていく。 様々な体の動きを取り入れた活動をバランスよく行い、運動量を十分に確保し、体力を高める。 	